

しもぼり・ひろつぼいせき
しもぼり・つかだまちいせき

下堀・広坪遺跡第1地点
下堀・塚田町遺跡第1地点

(小田原市No.271遺跡)

調査期間 20060601～20061027
20080616～20080815

所在地 小田原市下堀字広坪
小田原市下堀字塚田
町

時代 中世
近世



作成日:20090619

概要

調査は、神奈川県小田原土木事務所による都市計画道路穴部国府津線街路事業に伴う事前の発掘調査です。本遺跡は小田原市域の中央部を流れる酒匂川左岸に広がる低地の遺跡です。調査地点の北東には、低位台地が南北に大きく広がっており、台地は小さな二つの谷によって隔てられています。そこには奈良時代に創建されたと考えられている千代廃寺に代表される、古墳時代及び奈良・平安時代など各時代にわたる著名な遺跡が所在しています。

調査地点は下堀方形居館と呼ばれる土塁が残る中世豪族居館の北側に隣接していますが、居館はこれまで本格的な発掘調査は実施されていませんでした。調査では居館の外側を取り巻く堀の具体的な位置と新たに外堀の一部を発見することができました。中・近世の遺構としては、堀・掘立柱建物・溝・井戸・土坑・ピット・道状遺構などが発見されました。

この外堀からは、当時の土器・陶器・磁器・鉄製品・木製品(漆器碗・下駄)・銅製品(筭)などの良好な遺物が出土しました。また居館西側の様相も具体的に把握できる内容であると思われます。さらに西側の調査地点では、柱穴の他に、井戸・土坑や溝など居館の西側に広がる関連施設と考えられる遺構が発見されています。柱穴は長方形に配置されてい



▲ 方形居館(右奥の林)と調査区



▲ 発見された堀

るものなどがあります。これらは堀立柱建物と呼ばれるもので、これまで発見されているものと合わせるとかなりの数の建物があったと考えられます。この具体的な用途などは、出遺物に恵まれなためわかりませんが、居館と隣接する場所は関連する施設や関係者の居住域など、計画的な土地利用が行われていたと考えられます。

このように今回の発掘調査によって下堀方形居館周辺部の重要な成果を得ることが出来ました。現在は、調査成果をまとめるために出土品整理室作業を行っています。



▲出土した漆椀



▲出土した筭